

申請者氏名

(専門医受験・様式2F_2017)

(記入例) 診療実績表 F 不整脈外科手術サマリー (外科系は1症例)

※赤字は好ましくない記入例です

患者番号	1	性別	男性	年齢	●●	生年月日	19●●/●/●●	※診療実績表E1と内容が同一である事を確認のこと	
不整脈診断	発作性心房細動							Eの1では糖尿病 Eの1と同一内容にして下さい	
合併疾患	左房内血栓(tachycardia induced cardiomyopathyの疑い)、高血圧								
外科手術対象不整脈	年月日は西暦で記入して下さい			発作性心房細動				どちらか分るように、○印をつけて下さい	
手術日	平成●●年5月5日						術者	助手	(いずれかに○して下さい)
外科手術の経過	咳嗽・下肢浮腫を主訴として近医を20●●年●月●●日に受診し、頻脈性心房細動+うっ血性心不全(LVEF20%)の診断にて緊急入院。利尿剤による心不全コントロールを開始し、電氣的除細動にていったん洞調律となったが、すぐに心房細動再発。その後、アミオダロン投与により洞調律となったが、心房細動再発の恐れがあるため、ablation目的に●月●●日に当院循環器内科へ転院した。術前検査のCTならびに経食道検査にて左心耳に可動性のある血栓像を指摘され、5月29日に緊急手術(左房内血栓除去、Maze手術)を施行した。(手術直前の心エコーではLVEF37%まで回復) 手術日が上記内容(5月5日)と異なっている内容に矛盾がないよう記入して下さい								
外科手術の結果	手術にて左房内血栓を除去するとともに、full Maze手術を施行した。(大動脈遮断時間100分、体外循環時間125分、手術時間3時間42分) 術後の血行動態には問題なく、手術当日に抜管し、術後2日目にICUを退室した。心調律は当初 junctional rhythmであったが、術後5日目より洞調律となり、術後一過性に心房細動が出現することもなく、術後10日目に軽快退院した。退院直前のLVEFは59%まで回復した。								
合併症	なし								
考察	術中に施行した心筋生検の病理組織所見ではDCMIに矛盾しないとの診断であった。ただし、本症例は術後左室機能が著明に改善しており、その理由として術後βブロッカーが著功した可能性も考えられるが、急速な心機能改善からはtachycardia induced cardiomyopathyの方が診断としては適切だと思われた。 本症例では洞調律を維持することが重要であり、たとえ術前のEFが悪くても、積極的にMaze手術を行ったために良好な結果が得られたものと考えられた。								